第２回　中川のサギ類コロニー保全対策方針フォローアップ会議　議事要旨

日時：令和８年１月 30 日(金) 10:00～11:45
場所：オンライン形式

1. 設立趣旨・規約の改正について

- 設立趣旨および規約内容を改正。
- 中島地区からサギ類コロニーが消失する可能性が避けられないなか、流域で保全対策を推進する会議と位置づけ。

主な意見

- 議事要旨や資料の公開方法・規約への明記を確認したい。
- 中島地区からサギ類がいなくなる前提で対策をフォローアップする場であり、河川事務所とフォローアップ会議にその覚悟が必要。

対応方針

- 資料・議事要旨を会議後に公開することを規約に明記し運用。
- コロニー消失が避けられないなかでのフォローアップであることの覚悟を共有。治水対策の掘削は不可欠だが、コロニーの保全はオンサイト・オフサイト両面で最大限対応する。

2. 中島地区の河道掘削について

- 掘削の経緯・範囲・今後の予定・確認事項を説明。
- コロニー周辺の掘削を２回（緊急流域治水プロジェクトと河川整備計画河道）実施する必要があるが、インパクト最小化のため当該箇所のみ河川整備計画水準で１回施工することを提案。
- 河岸勾配の変更がサギ類への配慮となり得るか、影響を与えない離隔、掘削前の誘導手法等を確認。
- 対岸屋敷林の吉川市道上流部は工事ヤード等として用地買収を進める旨を報告。

主な意見等

- 消失する架巣範囲相当分を、人工構造物設置等で営巣環境を確保する技術開発をしてはどうか。
- 疑似木等での営巣実験を工事前に実施すべき。既存営巣林の高さの延長が試験に適する。
- 「目隠し」樹林を代替する擬木の検討も必要。
- 架巣・とまり範囲に変化を与えない場所なら非繁殖期の掘削は影響が少なく、31.5km より下流は前倒し掘削が可能。
- 対岸屋敷林のコロニー保全には対策が必要で、埼玉県や市等と連携して取り組む必要がある。
- 事務局：「中の島」下流側での人工営巣棚設置を検討。屋敷林全体の架巣状況を確認し、県・市町との連携体制を整える。

以上

【参考】欠席された委員との打合せ要旨

日時：令和 8 年 1 月 28 日(水) 13:00～14:10
場所：オンライン形式

- 設立趣旨に保全対策方針の日付（R8.1）を明記することで了承。
- 「中の島」は環境に配慮した一般的な勾配とすることで妥当。
- 残り 3 年でサギ類が営巣可能な植生成立や人工構造物の整備は難しい。掘削範囲は架巣・とまり範囲を脅かさないことが重要。
- 中島地区のコロニーはほぼ消失すると考えられるが、数年後に戻る可能性もあり、「中の島」を残す意味はある。
- 掘削までの 3 年間は、流域全体で保全に取り組む関係づくりに注力すべき。シンポジウム開催等で将来像を公開し、市民や越谷市・吉川市も含め流域全体で取り組む関係づくりがゴール。

以上